

AKIHICO MORI CULTURE 2024.12.11

OpenAIの動画生成AI「Sora」の“流出”と、アーティストたちの言葉

12月9日、OpenAIによる待望の動画生成AI「Sora」が公開された。しかし11月26日、アーティストらが、公開前のSoraを“流出”させる騒動が起きていた。この騒動を受けて公開に踏み切ったのか、OpenAIは公式のコメントをしていない。



IMAGE: WESTEND61/GETTY IMAGES

AIの最新動向を毎週お届け。WIREDのニュースレターを購読しよう。

購読する

必ず利用規約・個人情報保護方針をご確認のうえ、同意いただける場合は「購読する」ボタンをクリックして下さい。

生成AIは、著作権やバイアスにかかわるさまざまな倫理的問題が未解決であり、たびたびアーティストからの批判にさらされてきた。しかし、今回のSora流出騒動は、最もアーティスト的な批判だったように思う。それはOpenAIにかかわりのあるアーティストらが、ただ言葉で批判するのではなく、まるでアート作品をつくるように行動し、社会現象をつくり出すことで行なった批判だったからだ。

2024年11月26日、機械学習モデルの開発、共有、公開を行なえるオープンソースのプラットフォーム「Hugging Face」に、突如としてOpenAIの「Sora」が流出した。またたく間に拡散したこの騒動を引き起こしたのは、アーティストとハクティビスト（ハッカーとアクティビストをかけ合わせた造語）らであり、彼ら／彼女らは、Soraの改善に役立つ知見を提供する目的で、OpenAIから先行的にSoraへのアクセスを認められていた人物だった。

しかしアーティストらは、「Soraがアーティストにとって便利なツールであると世界に伝えるための『アートウォッシング』に誘い込まれているだけだ」とする声明とともに、この流出を実行した。アーティストらの公開情報によれば、OpenAIは3時間後にプログラム全体を停止し、それまでに217の動画が生成されたという。

この事件は、『The Independent』や『Financial Times』を含む数多くのメディアに報じられた。今回、流出にかかわった人物に接触し、匿名とすることを条件にコメントを取得した。そのアーティストはこの流出を「根本的な力の不均衡を覆い隠す『アーティスト・パートナーシップ』の物語に挑戦した」と表現している。さらに「テック企業がいかに創造的な労働を組織的に収奪し、アーティストの知的で創造的な仕事を、意味のある報酬なしにトレーニングデータに変えてしまうかを強調するための意図的な介入だった」ともコメントしている。

彼ら／彼女らは、アーティストの作品が適切な承認や補償をされることなく、AIモデルのトレーニングデータとして使用されるという搾取的な行為を、アーティストとのコラボレーションとして描いてみせたことを不当だと考え、行動し、それを社会現象とすることで批判してみせた。

騒動から約2週間後の12月9日、アーティストらは、この流出にかかわった人物らによる「デジタル複製という檻の中の芸術 (Art in the Cage of Digital Reproduction)」というエッセイを発表した。そして

Most Popular



SCIENCE

エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説

BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS

オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機

BY JOEL KHALILI



BUSINESS

なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか

BY MAXWELL ZEFF

詳しくもそれは、OpenAIによるSoraの公開と同じだった。公開は、12月5日から12日間、わたりに、OpenAIが新機能や製品、デモを毎日発表するイベント「12 Days of OpenAI」の5日目にあたる。

「OpenAIの従業員の何人かは、最初の流出とマニフェスト作成にかかったアーティスト・ハクティビストらと同じ場所に居合わせた」と、同じく流出にかかった人物から証言を得たが、わたしたちはアーティストが生成AIの巨人を動かした瞬間を目にしているのか、それとも単なる偶然だったのかはわからない。OpenAIはこのことに関して、公式のコメントを発表してはいないのだ。しかし、流出から公開までの2週間の語り部として残されたこれらの言葉は、生成AIのこれからの議論に深く刻まれるものになるだろう。以下にクリエイティブ・コモンズライセンスで公開された、流出にかかったアーティストらのエッセイの日本語訳を掲載する。

＊

デジタル複製という檻のなかの芸術

2024年11月26日、アーティストとハクティビストのグループが、OpenAIの技術を一般に再公開する行動を起こしました。わたしたちは、OpenAIの動画生成モデルであるSoraに、Hugging Faceのオープンソースフロントエンドを介して間接的にアクセスできるようにしたのです。

同時に、わたしたちは「企業AIの支配者」による研究開発、トレーニングデータ、広報活動のためにアーティストが搾取されることを否定する声明を発表しました。わたしたちはアーティストたちに、独占的なシステムや、大手テクノロジー企業が仲介するモデルのプロンプトの限界を超えて考えるよう呼びかけました。

Hugging Faceのページと添付した公開書簡は瞬間に広まりました。OpenAIは3時間後にプログラム全体を停止し、217の動画が生成され、長い待ち時間が発生し、その結果はインターネット上で広く共有されたのです。この出来事は国際的に取り上げられています。

2024年12月9日

「」 親愛なるAI企業の重役の皆様 「」

わたしたちはアーリーテスター、レッドテスター、クリエイティブパートナーになるという約束のもと、Soraへのアクセス権を得ました。しかし、実際には、Soraがアーティストにとって便利なツールであると世界に伝えるための「アートウォッシング」に誘い込まれているだけだと考えています。

アーティストは、無給の研究開発者ではありません。

わたしたちは、無給のバグテスター、広報用の操り人形、トレーニングデータ、検証トークンではありません。

何百ものアーティストが、1,500億ドルの価値をもつ企業のために、バグテスト、フィードバック、プログラムの実験作業といった無償労働を提供しています。何百ものアーティストが無償で貢献している一方で、競争を通じて選ばれた少数のアーティストだけが、Soraで制作した作品を上映されることになります。その報酬は最低限のもので、OpenAIが得るPRやマーケティングの価値と比較すると見劣りします。

非正規化

10億ドル規模のブランド アーティストを無報酬で搾取し、研究開発と広報活動を行なう

さらに、共有する前にすべての成果物をOpenAIチームが承認する必要があります。このアーリーアクセスプログラムは、創造的な表現や批評というよりも、むしろPRや広告に重点を置いているように見えます。

企業によるアートウォッシングが発覚

企業によるアートウォッシングが発覚

わたしたちは、このツールをリリースすることで、300人ほどのアーティストに提供されたものと同じ機会を皆さんに提供したいと考えています。それは、このツールへの無制限かつ無料のアクセスです。

芸術のためのツールとしてのAI技術の利用に反対しているわけではありません（もし反対しているなら、おそらくこのプログラムに招待されることはなかったでしょう）。同意できないのは、このアーティストプログラムの展開方法と、ツールが一般公開される前にどのようなかたちになっているかということです。OpenAIがよりオープンになり、アーティストにとってより使いやすくなり、PRのための見せかけ以上の芸術支援を行なうことを期待して、わたしたちはこれを世界に共有しています。

アーティストの皆さんに、独占的なツールを超えたツールの利用を呼びかけています。

オープンソースの動画生成ツールは、アーティストが門前払いや商業的利益、またはいかなる企業へのPR活動からも解放され、前衛的な試みを行なうことを可能にします。また、アーティストの皆さんに、独自のデータセットで独自のモデルをトレーニングすることもお勧めします。

利用可能なオープンソースの動画ツールには、CogVideoX、Mochi 1、LTX Video & Pyramid Flowなどがあります。

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular

しかし、誰もがオープンソースのツールやモデルを実行できるハードウェアや技術的能力をもっているわけではないことをわたしたちは認識しています。そのため、アーティストに正当な報酬を支払うことを前提に、アーティストの真の表現を可能にする手段を提供してくれるツールメーカーを歓迎します。

この手紙に共感していただける場合は、[こちら](#)に署名をお願いします。

シー・チェン

エンジニアとしての訓練を受け、アーティストとして活動し、好奇心に導かれるままに歩んできたわたしは、わたしたちメディアアーティストが使用するテクノロジーの多くが、軍事目的で開発され、実用目的に合わせて拡張されてきたことを痛感しています。わたしのようなアーティストは、こうした技術ツールを検証し、探求し、再目的化し、独自のビジョンとバージョンを考案します。

結果として、思いもよらないものを新たな現実へと導く、思索的なツールとなる可能性があります。電子音楽は、好奇心旺盛なアーティストの手によって、新しいツールが美意識を拡大していく好例です。一方で、批判的なものとなる可能性もあります。技術的実装に関する懸念を共有し、差し迫ったディストピアを警告し、あるいは特定の現実を好む社会の傾向を指摘する、といった具合にです。

こうした思索的・批判的な反応について、企業は往々にして前者のメリットを認識しています。アーティストの作品は技術的な差異よりも共感を獲得しやすく、一般消費者も受け入れやすい。しかし、閉鎖的な企業に対する公開書簡で述べたように、わたしたちのグループには後者を支持する人々が増えていきます。わたしたちは、消費されうる結果へと導く足場を解体し、代わりにその設定自体を批判する時宜を得た議論を始めました。

抑圧する者と抑圧される者という二元論や、貧しい芸術家と寛大なパトロンの古い物語は拒否しなければなりません。その代わりに、道具をつくる者と道具を使う者は共生関係を築くべきです。アーティストはアーリーアダプターでありイノベーターとして、人間的な視点からテクノロジーを振り返り、ハックし、再考し、テクノロジー開発における人間性を体現するのです。人間性を代表するものとして、テクノロジーの進歩のテーブルに平等に座らなければなりません。

企業がスポンサーとなるアーティスト・レジデンシーは、アーティストが可能性を想像するだけでなく、それを批判的に検証する機会と場を創出するでしょう。この想像力と批判力というふたつの好奇心は、人間性の根幹をなすものであり、同様に不可欠な要素として育むべきものです。

フェデリコ・ボンバ
芸術監督

わたしは常に、アーティストがOpenAIや生成AIを開発する企業と交わすべき会話は、著作権の補償を巡るものであってはならないと信じてきました。著作権は、企業や一握りの著名なアーティストに利益をもたらすためにつくられた制度であり、大多数の独立したクリエイターにはわずかな恩恵しか残さないものです。真の需要は、共通の遊び場であるウェブからアーティストの作品を採掘することで既に実現しているように、所有権の従来の概念に挑戦するような革新的なものでなければなりません。必要なのは、これらの企業が生み出す富を有意義に再投資し、できるだけ多くのアーティストに利益をもたらすことです。かたちだけの少額の助成金や見せかけの行為ではなく、何百万ドル、何百万ユーロ、何百万円、あるいは何百万ペソの資金が、世界中の芸術コミュニティが実験や革新、限界に挑戦する力を直接的に強化するために注ぎ込まれるべきです。アーティストのスキルや貢献を尊重する企業に期待されるのは、まさにこれです。

残念ながらOpenAIは、AIアートの未来をかたちづくるアーティストたちとの関係を強化する重要な機会を逃しています。そのなかには、この分野のリーダー的存在であるアーティストもいます。アーティストの専門知識やビジョンに対して有意義な報酬を与えるのではなく、同社は「知名度」で報いることを選択しました。さらに、OpenAIの公募に参加したことに対する実際の報酬は、1,500ドルの小額助成金でした。この金額は、高品質な作品を制作するために必要な時間や労力を反映しているとは言えません。このアプローチは、アーティストの貢献を過小評価するだけでなく、芸術コミュニティのニーズや権利から乖離していることを示しています。

この行動は、OpenAIの崇高な使命である「**汎用人工知能が人類全体に利益をもたらすことを確実にする**」という使命と一致しているのでしょうか？ アーティストは人類の一部ではないのでしょうか？ それとも、人類にはAIの進歩から利益を得るエンジニア、開発者、投資家だけが含まれるのでしょうか？ このような控えめな報酬を提示するという決定は意図的なものだったのでしょうか？ それとも、おそらく芸術に必要な重要な研究、努力、感情労働を過小評価する一般的な傾向を反映した見落としだったのでしょうか？ いずれにしても、これは悪い兆候です。OpenAIが芸術界を適切に評価できないことは、単なる失策以上の問題であり、より深い問題を示唆しています。アーティストは単なるコンテンツ制作者ではなく、文化の革新者であり、批判的思考者であり、不可欠な協力者です。OpenAIがこうした関係を育むのを怠ることは、重要な貢献者のグループを遠ざけるだけでなく、AI技術のより広範な人文科学的な応用を探索する自らの潜在能力をも制限することになります。

もしOpenAIが自らの使命に真剣に取り組むのであれば、そのコミットメントを実証するための有意義なステップを踏む必要があるでしょう。象徴的な額をはるかに超える相当な基金を設立すれば、オープンな助成金やレジデンシー、共同プロジェクトなどを通じて芸術コミュニティに直接的な支援を提供することができ、これは慈善事業ではなく、AIがこれまで引き出し、できなかった創造的なエコシステム

Most Popular



SCIENCE

エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説

BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS

オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機

BY JOEL KHALILI



BUSINESS

なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか

BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE

エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説

BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS

オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機

BY JOEL KHALILI



BUSINESS

なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか

BY MAXWELL ZEFF

に再投資することです。そうすることで、OpenAIはアーティストとの信頼を再構築し、業界にとってポジティブな模範となることが出来ます。それは、PRのためのアートウォッシングでなく、不可欠なパートナーとしてアーティストを大切にしていると示すことです。

これは今日アーティストに起こったことですが、明日はほかの専門家にも起こるでしょう。もしOpenAIが、これらのテクノロジーを形成したクリエイターたちに敬意と説明責任を示すことができないのであれば、人類のより幅広いニーズに応えられると期待できるでしょうか？ 芸術界はもっとふさわしい扱いを受けるべきであり、OpenAIは、研究に対するアーティストへの報酬は生成AIの未来への戦略的投資の問題であると認識することで、この状況に対応すべきです。

フェデリコ・ボンバは、*Sineglossa*の代表であり、ボルツァーノ自由大学のヒューマン・コンピューター・インタクシ

匿名 #1

アーリー・Sora・アクセスをもつ匿名アーティスト

芸術とテクノロジーに深くかわかり、仕事をしているクリエイティブなプロフェッショナルとして、わたしはテクノロジー企業、特に大手テクノロジー企業によるクリエイティブな労働力と芸術的労働力の搾取的なシステムに異議を唱えるために団結します。現在のAI開発は、アーティストやクリエイターを、企業の利益のために搾取される単なるリソースに貶めています。技術革新が創造的な搾取と同義語になっている状況です。

わたしたちの批判の核心は、搾取をチャンスだと偽装する企業の略奪的行為を暴露することにあります。限定的なアクセスを提供し、オープン性やコラボレーションの幻想を生み出すことで、これらの企業は、アーティストやクリエイターの自主性、報酬、知的権利を組織的に剝奪しています。**これは洗練されたかたちの操作であり、労働の収奪です。**

OpenAIのアプローチは、アーティストをツールへのアクセスという約束で誘い込みながら、彼ら／彼女らの行動力、報酬、創造的な自主性を奪うという、企業による技術抽出のプレイブックであることを明らかにしています。

これは一時的な問題ではなく、この操作的なアプローチは、人間の労働と創造性を常に軽視する技術搾取の歴史的パターンを深く埋め込んだ搾取資本主義を体現しているのです。技術の進歩が、紛争地域で採掘される鉱物や、わたしたちのデジタルインフラのほか、AIを支える低賃金のコンテンツモデレーターやデータラベリングまで、目に見えない労働に長らく依存してきたように、現在のAI開発モデルは、このシステム的な不可視性と搾取の遺産を継続しています。(これらの相互に関連するシステムについてより深く掘り下げた考察をしたい場合は、一見無形のテクノロジーの背後にある複雑な人的・物的ネットワークをマッピングした、Kate CrawfordとVladan Jolerによる『[Anatomy of an AI System](#)』の一読をお勧めします。)

300人のアーティストであろうと300万人のユーザーであろうと、根本的な力学は変わりません。ツールをコントロールする者が物語をコントロールするのです。公開は民主化ではなく、コントロールされた想像力の流通だったのです。この問題はOpenAIやSoraに限ったことではなく、略奪的な産業全体にある慣行です。OpenAIは、人間の想像力をアルゴリズムのトレーニングデータに変えることで創造的な自主性を組織的に解体し、アーティストから大胆に盗みながら、同意なしに作品をベースモデルに組み込んだり、アーティストの声を複製したりするなど、創造的な労働力を搾取するテクノ資本主義モデルの先鋒となっています。

創造的な労働者に対する深刻な構造的搾取を覆い隠すイノベーションの仮面を被っているということです。わたしたちの創造性や個性は、OpenAIのトレーニングデータとなります。搾取されるべき資源として扱われているのです。

真のアーティスト支援には、テクノロジーとのコラボレーションの根本的な再考が必要です。透明性のある収益分配モデル、AI開発における真の意思決定権、強固な知的財産権の保護、そして創造的労働の本質的価値を反映した報酬などです。アーティストを、テクノロジーの組み立てラインにおける使い捨て可能な資源としてではなく、多様な感性と視点をもつ知的パートナーとして扱うということです。アーティストやクリエイターには、同等の専門知識をもつ技術者と同等の報酬を支払うべきです。

わたしたちの反対意見は、技術の進歩の拒否ではなく、そうした進歩が創造性と創造的な労働の基本的尊厳と価値の尊重を確実にすることを目的としています。問題は、単一の技術や企業をはるかに超えた範囲にまで広がっています。これは、デジタル時代の創造的な労働の未来にとって重要な転換点です。現在、アーティストたちは技術の炭鉱におけるカナリアであり、その待遇は、ほかの創造的な専門家たちが商品化され、疎外されていく様子を予見しています。芸術的貢献を組織的に軽視することで、これらの企業は単に個々のクリエイターを搾取しているだけではなく、人間が本来もつ想像力に富んだ表現能力を蝕んでいるのです。

いまこそ、批判以上のことが求められています。創造的な仕事をどう評価するのか、根本的な再考が必要なのです。アーティストやクリエイターは、テクノロジーの進歩の恩恵に存在するのではなく、特にAI

Most Popular



SCIENCE

エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説

BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS

オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機

BY JOEL KHALILI



BUSINESS

なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか

BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE

エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説

BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS

「インテリジェントな権利と尊重のインテリジェントな将来を模索した」の「インテリジェントな権利と尊重」の明確な知的財産契約。わたしたちの創造的なイノベーションが、企業のブラックボックスに単に吸収されることがないという保証が必要。

- クリエイティブ分野に影響を与えるAIシステムの構築、ガバナンス、展開をかたちづくる上で意味のある意思決定権。アーティストもそのテーブルに着く必要がある。

これらの要求が満たされるまでは、OpenAIのようなテクノロジー大手による「アーティストとの提携」の主張は、主に空虚なPR活動であり、搾取的なビジネスモデルの永続化と見なされる可能性があります。わたしたちは、限定的な利益のもと、前例のない規模でクリエイティブなコミュニティの力を奪う可能性のあるシステムの構築を手助けすることに同意できません。

その意味で、わたしたちは自らの主体性を取り戻し、独自のツールを開発し、アルゴリズムによる搾取ではなく、自由な人間の想像力が栄える未来を築かなければなりません。いまこそ抵抗を始めましょう。ボイコットし、投資を引き揚げ、より健全で繁栄する未来を想像し築くために、わたしたちの創造性を再投資しましょう。

CROSSLUCIDは、テクノロジーとの共進化を目的とした、高度の学際的なプロジェクトに取り組むアーティスト集団(2018年設立)です。CROSSLUCIDの作品と研究は、自己をネットワークとして探求することに集約されています。デジタル空間を通じた親密さや快適性の実現可能性、そして、共生の生物圏や普遍的なポスト物質的意識の一部として捉えられるテクノロジーとの同盟関係の再考などです。映画制作、詩的な人工知能、コラージュの多層的な技法、アセンブリ、経験主導の介入にまたがる探求を通じて、シナリオを作成し、潜在的な未来のプロトタイピングとリハーサルを促し、メタモルフィックな価値観を進展させる体験形式を構築しています。<https://crosslucid.zone> X: @Crosslucid IG: @crosslucid

ウェスリー・ゴートリー(ゲスト) AI、気候、テクノポリティクスに関する批評家および研究者

わたしはOpenAIに芸術を支援してほしいとは思いません。芸術とは一切かわらないでほしいと思います。OpenAIは最近、米国国家安全保障局の元局長で、米軍サイバー司令部の将官を取締役に任命しました。また、新たな軍との提携も進めています。OpenAIのCEOであるサム・アルトマンは、米国の選挙でドナルド・トランプの勝利を祝福したテクノロジー業界の主要人物のひとりでした。OpenAIの最高技術責任者は、同社のツールによって脅かされる創造的な仕事は「そもそも存在すべきではなかった」と述べています。現在、OpenAIがどのようにして、わたしたちの作品や何百万人ものほかのアーティストの作品を無断で盗用してツールを構築したかについて、複数の訴訟が進行中です。わたしたちは誰も、OpenAIと仕事をしたり、宣伝したり、お金を受け取ったりしたいとは思わないはずです。

しかし、上記のような事実があるにもかかわらず、このような企業を宣伝しようとしている人々もいます。OpenAIに反対する嘆願書に署名した多くのアーティストと同様に、ポール・トリロもSoraツールの早期アクセス権をオファーされ、その契約を受け入れました。トリロは、SoraへのアクセスとOpenAIによる自身の作品の宣伝を条件に、無償でSoraの宣伝を行なうことを明らかにしています。その結果のひとつとして、今年初め、アルスエレクトロニカ・フェスティバルは、トリロがSoraを使って制作したミュージックビデオで、同フェスティバル最大のAIアート賞を授与しました。その受賞声明は、Soraの宣伝を意図したかのような疑わしい内容でした。アルスエレクトロニカは、その資金調達モデルの大部分を企業スポンサーシップと寄付に依存していますが、OpenAIからの寄付に基づいてトリロに賞を授与したかどうかは問題ではありません。重要なのは、宣伝提携や金銭的(または無償の)推奨が散見されるデジタルアート分野では、このようなことが起こり、今後も起こり続ける可能性があることを容易に想像できるということです。

もし、わたしたちの芸術のツールが、ますます右翼化するテクノロジー業界(OpenAIはその産物に過ぎない)に否応なく縛り付けられ、わたしたちの芸術が、どんな新製品でも売り込むための派手な技術デモに過ぎなくなるような未来を望まないのであれば、取るべき行動は明白です。OpenAIのような企業がアーティストや観客、機関を宣伝の道具に変えようとする試みを拒否すべきなのです。拒否することは、友人や同僚、教師や学生たちにツールを推奨しないということです。また、わたしたちの作品でそのツールやその能力を宣伝することも拒否することです(「ChatGPTと一緒に詩を書いてもらった、こんな作品ができたよ!」など)。わたしたちが入力するすべてのプロンプトや、生成する画像やテキスト、動画がこれらのツールの成長に利用され、投資家にわたしたちの労働の代替品として販売されるだけである場合、真の拒否とは、OpenAIのツールを完全にボイコットすることです。

OpenAIの製品にはオープンソースの代替品が数多くあるため、それらに抵抗することはAIツールの使用を完全に拒否することにはならず、自分たちの価値観に基づいて支援する相手を選ぶ権利を主張することになります。

この責任はアーティストだけでなく、機関にもあります。ギャラリーやフェスティバルが、広告、アートウォッシング、企業の社会的責任という紙一重の領域で活動するテクノロジー業界の隠れ蓑となる未来を望まないのなら、これらの機関はわたしたちとともにこれらの企業を拒絶する必要があります。これは単に企業からの資金提供を拒否する以上のことを意味します。気候危機に焦点を当てているギャラリーが、アーティストのひとりが化石燃料産業と仕事をしていることを、よくて利害の対立、悪ければ偽善とみなすのと同じように、アーティストの作品、権利、生活を守りたいと願うギャラリーや機関は、OpenAIのような企業と何らかの関係があるアーティストに、そうした価値観に明らかに反する活動をしている企業との関係を明示するよう求めるべきです。

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

なぜなら、文化とはわたしたち全員がその一部であり、形成に携わる有機体だからです。わたしたちの文化は、わたしたちが何を話し、どのように行動し、何を消費し、何を拒絶するのかによって形成され、また、それらに影響を与えます。アーティストとして、わたしたちの行動はほかの多くの人々と比較して文化に多大な影響を与え、観客や同僚のアーティストにも影響を与えるという特権と責任の両方を担っています。わたしたちが誰を支持し、誰を宣伝するのかを認識することで、わたしたちは、世界に実現したい創造的文化を築き、そうでない文化を拒絶する努力ができるのです。

プリマヴェーラ・デ・フィリッピ
アーティスト、法学者

OpenAIが選抜したアーティストグループに、新しいテキストを動画にする技術「Sora」の早期アクセス権を与えた際、それはアーティストたちが新しい創造的ツールを試す特別な機会として位置づけられました。しかし、この一見寛大な行為の裏には、暗黙の取引が隠されています。アーティストの専門知識と創造性が、OpenAIの製品を改良し、その価値を証明するための無償労働として利用されているのです。実際には、Soraへの早期アクセスは、無報酬のコンサルティングと位置づけるべきでしょう。アーティストのフィードバックや作品が製品の進化に不可欠な要素となり、アーティストは見返りを得ることなくOpenAIの長期的な利益に貢献することになります。

この慣行は、何世紀にもわたってクリエイティブ産業を悩ませてきた、より深刻な搾取のかたちを示しています。それは、報酬なしに創造性を商品化することです。デジタル領域において、この慣行がより悪質なのは、実験、コラボレーション、コミュニティへの貢献という名目のもと、大企業が私的利益のために無報酬労働を容易に利用していることです。

X／TwitterやFacebookのような主要なオンライン・ソーシャルメディア・プラットフォーム、およびグーグルのような大手オンライン事業者は、長年にわたり、ユーザー生成コンテンツを収獲して利益を生み出す技術を完成させてきました。参加をエンパワーメントと位置づけながら、ユーザーベースによって生み出された価値を組織的に利用しているのです。同じ論理がいま、AIの領域にも浸透しつつあり、アーティストたちはSoraのようなツール上で「コラボレーション」を求められています。ただし、対等なパートナーとしてではなく、無報酬のベータテスターとしてです。アーティストたちの作品は、いつかアーティストらと競合するアルゴリズムを改良するために利用されるのです。

Soraの試験に参加した300人のアーティストは、関与の度合いや報酬の面で、まったく異なる経験をしました。一部のアーティストはSoraベースのプロジェクトで5桁の資金調達に成功した一方で、大半のアーティストには、最低限の、あるいはまったく金銭的な評価が与えられなかったのです。OpenAIの基準で最も優れた作品を制作したアーティストには、1,500ドルの賞金と作品発表の機会が提供されました。

したがって、製品の限界に挑戦するのではなく、Soraの能力を強調して製品を暗に賞賛する作品を制作するアーティストだけが、有意義な経済的支援を受ける立場に置かれることになりました。企業からの評価を競い合うアーティストたちに暗黙のうちに課せられた使命は、OpenAIの宣伝やマーケティングの目的に最も適合する、PRに適したコンテンツを生み出すことです。大胆な実験や重要な取り組み、あるいは従来の美学に逆らう作品は、ほとんど評価を得られず、商品化された美学を真の芸術的探求よりも優先するよう設計されたシステムのなかでは、組織的に疎外されてしまいます。この力学は創造性を制限するだけでなく、創造性を利用し、アーティストを、最終的にはその労働とアイデアから利益を得るツールの事実上のブランド大使に変えてしまいます。

Soraの裁判で明らかになった機会の不均衡な状況は、偶然の産物ではなく、戦略的な企業戦略です。OpenAIは、参加者を厳選することで、芸術への包括性と支援を装い、マーケティングのストーリーに沿うだけが実質的な報酬を得るシステムを隠蔽しています。一見寛大な資金援助でさえ、洗練されたかたちの支配となり、高給取りのアーティストを企業の利益に縛り付け、アーティストらの作品を、その可能性を真に探究するものというよりも、ツールの能力を示すショーケースとして位置づけています。

無報酬のアーティストたちは不安定な状況下で労働に従事し、漠然とした名声の約束を追い求めることになります。彼ら／彼女らの創造的なエネルギーは事実上武器化され、企業側の気まぐれに従い、ある程度の認知や報酬を確保することを期待して、あらかじめ決められた美的感覚に沿った作品を制作することを余儀なくされます。この力学は、力の不均衡を強めるだけでなく、芸術的な革新が商品化され、創造性が利用され、反対意見が隅に追いやられるようなシステムを永続化させます。最終的には、企業が芸術的な革新の条件を決定するシステムが育まれ、アーティストはアルゴリズムの改良という機械の歯車として機能するだけになるかもしれません。

実際、生成AIモデルを訓練する企業は、最終的にこれらのモデルの創造的能力を決定する存在です。これは、芸術的搾取をはるかに超えた、さらに陰湿な問題を示しています。それは、芸術的多様性の潜在的な喪失です。Soraは、ほかの多くの企業生成AIモデルと同様に、人気があり収益性のあるコンテンツを生成することを目的として、安全で市場性のある美的感覚を中心に構築されたデータセットで訓練されています。これにより、創造性を平坦化し、芸術的革新を妨げるツールが生まれます。芸術は、想像力よりも模倣を評価するアルゴリズムのエコーチェンバー（共鳴室）と化します。

アーティストは、このようにして、次のような矛盾に直面せざるをえなくなります。アーティストを「強化」するはずのツールが、アーティストの芸術的な個性を奪い、企業主導の画一化と自己再生産の循環にアーティストを閉じ込めるという矛盾です。これは、企業利益を優先するあまり、芸術的な表現の自由が徐々に侵食されていくことを意味します。

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機

この傾向を逆転させるにはどうすればよいのでしょうか？

アーティストに必要なのは「眺めのいい檻」ではなく、真のテーブル席です。OpenAIのような企業は、アーティストとの真のパートナーシップとは、単に技術を可視化したり、早期にアクセスできるという以上のものだということを認識しなければなりません。アーティストが生成AIの未来をかたちづくる真の協力者として行動するためには、新しい創造的なツールへのアクセス権が与えられるだけでなく、参加型のガバナンスと、それらのツールの使用と改良に対する公平な報酬がアーティストに与えられる必要があります。

最終的には、芸術的搾取を非難するだけでなく、芸術革新の未来を推進するツールを芸術家がかたちづくる能力を取り戻すことが重要です。なぜなら、これらのツールの目的や使用方法を企業に定義させてしまうと、芸術表現の本質である多様性、反抗、異論、そして絶えず世界に挑戦し、再考する能力を失う危険性があるからです。

この観点から見ると、Soraへの一般アクセスを提供することでOpenAIのアクセス制限を覆したアーティストたちは、挑発的で象徴性の深い芸術的パフォーマンスを自ら演出したと言えるでしょう。企業による制限を破り、この革新的なツールを誰もが利用できるようにすることで、彼ら／彼女らは、創造的な抵抗が、人間の主体性を回復し、テクノロジーの物語を搾取ではなくエンパワーメントへと変える力となることを明らかにしたのです。それは、芸術の本質は、檻に閉じ込められることを拒む反抗的な行為であるという大胆な主張でした。

匿名 #3

アンチAIアート宣言

もうひとつの道

人間のクリエイターとAIモデルが交差する領域では、主に2つの陣営が形成されています。AIの能力から離れようとする人々、そしてAIを熱狂的に採用し、絶え間なくアップグレードされる美学的要素や超現実主義を賞賛する人々です。わたしたちは、アンチAIアート宣言の提唱者として、第3の代替案を提案します。

何が問題なのか

現在の生成AI開発の軌跡は、プロンプトによってアクセス可能な潜在空間の範囲を「美的に好ましい人間が望む結果」の現実的な再現に絞っているという特徴があります。これは平凡さと均質性を生み出します。予測可能な結果、期待される成果、これらは人間の期待の境界内に閉じ込められたAIが生み出したものです。わたしたちは、この画一性、AIが魂のない鏡となり、新しいキャンバスや筆とはならない未来に向かって平凡に歩むことを拒否します。

わたしたちが提案するもの

わたしたちの提案はシンプルです。生成された成果物が「美的に魅力的」であるべきだという狭い視点の強化を最適化するフィードバックループを打ち破りたいのです。わたしたちは、AI生成物の領域の端に位置する不具合、不完全性、異常性を積極的に取り入れます。これらの異常性は、しばしばエラーとして破棄されますが、わたしたちの表現手段となります。わたしたちは、AIモデルの明確に定義された潜在領域に反する要素を意図的に選択し、多くのAIトレーナーが意図的に排除するものを強調します。

わたしたちは、新しい美と質感の発見のために潜在空間の探究を奨励しています。AIモデルの未知の領域を掘り下げることで、わたしたちは新しい視覚表現と予期せぬ美を発見し、芸術的可能性の多様性を豊かにしていきます。

なぜアンチAIなのか？

わたしたちの目標は、商業的なAIモデルのクリエイターが踏み込もうとはしないであろう、表現の領域を創出することです。実際、わたしたちの「美的でない」作品に対応するように訓練されたAIモデルは、より不完全な結果を包含するようにフォーカスを再調整する必要があります。少なくとも、そのようなモデルに縛りをかける人々から見れば、その品質は必然的に低下します。

逆説的ではありますが、もし文化的に関連性の高いアート作品を制作し、それがアート界に浸透することに成功すれば、これらの作品は文化的関連性の維持を誓う現代の生成AIモデルのトレーニングデータセットの一部となるはずです。そして、もし我々のアートが現代のAIモデルの一部となれば、これらのモデルは不完全な結果を組み込み、潜在的な空間を脱領土化し、ポジティブな強化フィードバックループへと導くことで、完璧さに縛られたこれらのモデルを腐敗させ、自身の劣化へと導くことになるでしょう。

想像してみてください。シジフォス[編注：徒労を意味する「シーシュポスの岩」で知られるギリシア神話に登場する人物]が幸せそうにしている姿を。

アンチAIアート宣言は、AIをツールとして使用することに伴う予測可能な創造性の単調さに対するはかない反抗です。これは、不完全さを受け入れ、境界に挑戦し、予期せぬ美しさのなかでその不完全さを明らかにし、生成AIモデルの未開拓の潜在領域を探索するよう、アーティスト、思想家、クリエイター、ツールメーカーに呼びかけるものです。

均一性への抵抗こそが、芸術的な革新の新たな時代の幕開けとなるのです。



BY JOEL KHALILI



BUSINESS

なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか

BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE

エルニーニョ現象とは？世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説

BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS

オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機

BY JOEL KHALILI



BUSINESS

なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか

BY MAXWELL ZEFF

ジョエル・サイモン

2018年より、わたしはツールメーカーおよび研究者として機械学習に取り組んできた経験から、創造性を高める生成テクノロジーの可能性に魅了されています。最初のプロジェクトである Ganbreeder (のちにArtbreederに改名) では、GANを画像作成の方法論として活用し、その潜在能力を18年に一般に示しました。当初は人間の表現力を拡張する可能性に熱狂していましたが、わたしの楽観主義は薄れました。今日、最も進化したツールは、限定的なプロンプトベースのインターフェースと厳格なモデレーションを備えたAPIの背後に閉じ込められたままとされており、その創造的な潜在能力を抑制しています。

わたしは自身のスタジオを運営し、ツールを作成し、新しいユーザーとともにそれらをテストしてきました。そのため、このようなプラットフォームを運営する上での課題には共感しますし、OpenAIのような企業がアーティストとかかわるための努力を賞賛します。しかし、わたしはこれらの大企業がアーティストの目標やニーズを根本的に誤解していると考えています。

アーティストには、特権的なアクセスに伴う検閲や自己検閲に直面することなく、ツールを試したり、壊したり、あるいは誤用したりする自由が必要です。

オープンソースの手法は理想的ですが、すべての人に適しているわけではありません。Artbreederの2つの例から、ホスティングされたプラットフォーム上でこの自由がどのように促進されるかを見てみましょう。まず、すべての画像は潜在空間の位置に完全にアクセスでき、オープンなシステムが確保されていました。次に、ユーザーがスクリプトでUIを変更できるようにし、潜在空間への任意の制限のない入力を可能にしました。この実験から、ユーザーが提供するネガティブなクラスラベルの価値など、予期せぬ洞察が明らかになりました。つまり、真に創造的なツールにはある程度の「壊れやすさ」が不可欠なのです。

企業には一定の規制が必要かもしれませんが、検閲は、その意図がどんなに善意のものであっても、アーティストが必要とする表現力や自由と本質的に相容れないものであることを認識することが極めて重要です。

MCSK

アーティスト兼テクノロジスト

伝統的なアートの世界と最先端のテクノロジーの両方を経験してきた者として、わたしは、技術革新の可能性が創造的搾取のより深い問題を覆い隠してしまうことを、直接的に目撃してきました。OpenAIのアプローチに代表される現在のAIパラダイムは、技術的能力と倫理的責任の間に深刻な断絶があることを明らかにしています。

これらのAIシステムのアーキテクチャは、従来の機関で見てきたのと同じ中央集権的な権力構造を反映していますが、創造的な自律性にとってさらに懸念すべき意味あいがあります。AIモデルの開発と展開に対する支配力を集中させることで、企業は単に権力を集中させるだけでなく、想像力そのものを集中させているのです。この集中化は、人間の創造性の主観的で多様な本質と根本的に矛盾しています。

わたしたちは、これらのモデルに食料を与えるクリエイターと、それらを開発する企業との間の垂直的な対話を緊急に必要としています。この対話を開こうとするアーティストを妨害したり、ツールへのアクセスに人為的な階層構造をつくらすることは、これらのシステムが学ぶべきである多様性と豊かさを損なうことになります。

分散化は単なる技術的な好みではなく、芸術の自由を守るために哲学的に必要性なものです。企業にわたしたちの創造的なプロセスをトレーニングデータとして商品化することを許すことは、わたしたちの労働力を手放すだけでなく、芸術表現の未来をかたちづくる能力を放棄することでもあります。真の芸術的革新には、企業からの指令ではなく、独自の論理に従って進化する、多様な声、アプローチ、モデルが必要です。

わたしたちは、これらのテクノロジーに対して受動的な貢献者から能動的な形成者へと転換する必要があります。つまり、オープンソースの代替案を開発し、透明性の高いガバナンス構造を導入し、芸術的な革新が企業の利益ではなくコミュニティの強化に役立つようにすることです。デジタルクリエイティビティの未来は、APIキーや企業のファイアウォールの背後に閉じ込められてはなりません。人間の想像力そのものと同じように、自由で多様かつ分散化されたものでなければなりません。

CONSTANT・デュラアート (ゲスト)

アーティスト、ADBK・ニュルンベルクのネットワーク・マテリアリティ教授

もうひとつの目抜き通りの建設を拒否する。

フォトリアリスティックな描写の統合を踏まえると、レンズベースの記録メディアの表現価値は絵画のそれに匹敵します。考えてみてください。ほとんどの画像は、何らかのかたちで起こったこと、あるいは描写され生成されたことの主観的な描写であり、絵画と同等の信頼性をもつようになりました。生成または合成された画像とは対照的に、レンズベースの画像であることを示す技術の詳細は、次々と模倣または偽装されています。ピクセル圧縮のアーティファクトからフィンガー問題まで、生成された(あるいは

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説

偽装された)画像が写真であると疑いなく確信させることが目的です。これは、写真が広く普及して以来、わたしたちが怠惰に慣れ親しんできた検証システムを損ない、偶像破壊主義の時代にわたしたちを投げ込みます。(こんにちは!ようこそ、お楽しみください!🍷)

現在の世代は、ある種の文書化を技術的な証拠として考えるように育てられてきましたが、いまや事実上、19世紀初頭の生活に戻されたようなものです。絵画もiPhoneで撮影したスナップ写真も、どちらも真実です。専門的な法医学的および証拠写真の撮影を除外すると、真実の写真文書化に関する議論には、ネガの加工、Photoshop、フレーミング、そしてここ数十年で色調の変更などが含まれてきました。参照メディアとしての写真は死んだのです。完全に偽装された画像の出現により、わたしたちは再び、民話や神話、謎の時代に戻りました。わたしたちの未来が、増え続けるファシズムの未来であるという、代替的な解釈が可能な時代は魅力的に思えるかもしれませんが、シンプルな物語への渴望は依然として続いています。アーティストとして、この描写の偽装を可能にする新しいテクノロジーにどう対応すればよいのでしょうか？わたしたちは新しいメディアのデモ段階に入り、可能なことを示し、祝うのでしょうか。おそらく、バイアスに関する批判的な考察も少しは必要でしょう。

この観点から、ヴィンセント・ヴァン・ゴッホが弟テオに宛てた写真の影響についての手紙は興味深いものです。彼は複製の規模について語り、絵画が提供する確信的な質を欠く画像について語りました。また、写真によってほかの芸術家の技術を研究する方法が得られる一方で、単なる描写(印象派としての)を超えた作品を展開する窓が得られることについても詳しく論じています。機関車よりも印刷機を愛したゴッホは、自身の作品の発展には新しいテクノロジーに負うところが大きいことを知っていました。

ハンマーしか持っていないと、すべてが釘に見えてくる。Soraしかもっていないと、すべてが生成されたものに見えてくる？この例えに従うなら、ハンマーを微調整したり、文化的嗜好を追加したり、あるいは偏見を排除して別の偏見を追加したりすることはできるでしょうか？アウトソーシングされたデータ解釈における核心的な問題は、入力データにおける偏見の存在です。オープンソース技術は、これらの偏見との相互作用を可能にしますが、主流のクローズドソースソリューションは、使いやすさを優先して相互作用を制限し、理想的なオープンソースのインセンティブを抑制してしまいます。

OpenAIのSoraのデモとテストを依頼されたアーティストたちの答えは明らかでした。この技術は、アーティストを製品のベータテスターとして利用するような、貪欲な営利企業が独占的に管理すべきものではないということです。この技術の開発中にオープンソース文化を支援し、この技術への複数の入口と出口を残すことの重要性を、わたしは心から支持しています。このモデルは実際にはリリースされなかったものの、短期間だったとはいえ、誰でもアクセスできるようになっていました。この行動の象徴的な価値は残っているのです。主張を貫くために特権的なアクセスを放棄します。

文化的に支配的で抑圧的な環境下で管理された技術へのアクセスを、またしても狭い範囲に限定しても、今後起こり得る問題に対処できる人は誰もいないでしょう。ましてや、メディアの象徴的な価値の解体については言うまでもありません。アルファベットが古いモデルを捨て、文化的に重要な開発の歴史を破壊し、OpenAIのブラックボックスの中身が見えないいま、わたしたちは、こうした慣行に抵抗するために、できる限りの象徴的な行動を起こす必要があります。誰かが大金に抵抗し、文化的に多様な開発を可能にするオープンアクセスを要求するなら、それは支持に値します。流される必要はないのです。透明性を要求し、オープンソースの開発を支援しましょう。

ジェイク・エルウズ
アーティスト&ラディカル・フェア

わたしは、約10年前に最初の生成AIツールが登場して以来、AIと機械学習に取り組んできたコンセプトチュアルメディアアーティストです。わたしの作品は、例えば、[The Zizi Show - A Deepfake Drag Cabaret](#)のドラッグ・クイーンたちとコラボレーションし、独自のデータセットを使用して倫理的かつ合意に基づくディープフェイクを作成するなど、これらのシステムを再構築し、クイア化することを目的としています。また、遊び心があり、希望に満ちたクイアな「オープン」AIユートピアを想像しながら、ゼロから独自のAIモデルを訓練しました(2023年から24年にかけて、英国のV&Aミュージアム、エジンバラ・フューチャーズ・インスティテュート、国際的なAIおよび美術館で展示)。初期段階にある生成AIモデルの実験から、わたしは常にその哲学的含意に興奮してきましたが、その潜在能力に圧倒されることもありました。最近では、アーティストや周縁化され抑圧された人々やコミュニティの意見を反映して設計されない場合、これらのツールがどこに向かうのかという緊張感と不安感が高まっていると感じています。

24年10月、わたしはOpenAIからSora Alpha Artists Testing Programへの参加を依頼されました。このプログラムには、映画プロジェクトをコンペディションに応募するオプションが含まれていました。受賞したプロジェクトは、同社のビデオジェネレーター「Sora」のデモに使用されることになります。アーティストがツールを使用してフィードバックを提供できる機会として提示されていましたが、むしろ企業がアーティストを利用しているように感じられました。そこでわたしは映画を提出する代わりに、誰でも使えるオープンソースのフロントエンドを介してアーリーアクセス用のAPIキーに間接的にアクセスできるようにすることで、OpenAIを再び開くことにしました。これはハッキングでもリークでもなく、単にOpenAIのサーバーをHugging Faceのインターフェースに接続しただけです。これは、アーティストやハクティビストたちが共同で書いた声明文とともに共有され、次のような重要な疑問を提起しました。

- アーティストや人間として、わたしたちはこれらのツールを使ってどのような未来を築きたいのか？

BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

- 誰がこれらのシステムを構築しているのか、その理由は何か？
- それらは誰のために役立つのか、そしてこれらのツールはどのように使われるのか？
- アーティストを無報酬で労働力として使う（無料の研究、トレーニングデータ、開発、PRの「アートウォッシング」を提供）企業を非正常化するにはどうすればよいのか？
- 独自の訓練データを使用して、独自の分散型AIシステムを構築することはできるだろうか？
- 反資本主義的で退廃的、非生産的または非生成的なAIとはどのようなものだろうか？
- 政策によって、周縁化され抑圧された人々（例えば、同性愛者、ストリートギャング、先住民、南半球諸国、トランスジェンダーコミュニティ）のみが、よりよいサービスをすべての人に提供するためのボトムアップ型のAIシステムを構築できるとしたらどうだろうか？
- 潜在空間を脱獄させ、不確実性を導入し、その潜在的なデータ空間のクエアで脱植民地的な限界に押しやることで、規範的で均質なアウトプットに陥るのを防ぐことができるだろうか？
- AIとともに、希望に満ちた技術的終末論やオルタナティブな（クエアな）ユートピアといった、よりよい未来や物語を想像することはできるだろうか？

これは、権力構造と企業によるクリエイターの活用方法に対する批判です。わたしは早い段階で、OpenAIのプログラムに参加するなら、システムとその目的について批判的にかかわりたいと話しました。わたしは当初、OpenAI自身の利用規約の文章を、AIがAI自身をシュールに解釈するビデオモデルへのプロンプトとして入力できないかと考えました（わたしにとって最も概念的に豊かなAIコンテンツは、人間が書いた法律用語で書かれたもので、派手な生成出力とは対照的です）。わたしは、アーティストへの影響を常に考慮することなくエンジニアたちがどのようにして先へ進んでいくのか、そして、画像や動画制作者にとって代わる可能性のあるツールをなぜわたしたちがつづけているのかという根本的な疑問について、率直にOpenAIと話し合いました。しかし、Slack上でこのプログラムが急速に発展するにつれ、たとえそれが名誉であると明示的にも暗示的にも表現されていたとしても、無報酬のアーティストがこのようなかたちで利用されることに、最終的にはわたしもグループ内のほかのアーティストたちも不快感を覚えました。一部のアーティストがこの件に問題を感じない理由も理解できますが（わたしたちの行動に対する反発がそれを示しています）、「バンクズ」程度の報酬では十分ではなく、底辺への競争を生み出すだけだとわたしたちは考えています。

わたしは、大手テクノロジー企業との関係を断つ余裕のあるアーティストとして、恵まれた立場にあることを自覚しています。生成AIの驚くべき進歩に興奮しているほかのクリエイターを批判するつもりはありません。しかし、アーティストには、AI技術を作品に取り入れるための批判的な方法を見つけ、これらのツールと革新的かつ力強く協働する方法を検討することを奨励したいと思います。

わたしたちは、自分たちのデータを使って自分たちのモデルを訓練し、大手テクノロジー企業のウェブサイト上の「定型的な枠」から抜け出すことを検討できるでしょうか。技術的にも社会的にも、不可避な直線的な進歩という概念に挑戦してみましょう。企業による独占と独自仕様のクローズドAIに向かって枝分かれしていくことが決まっているわけではありません。Web1.0の考え方を見直し、連合型AIを導入し、潜在空間の操縦者となることを受け入れましょう。言語による指示の制限から自らを解放し、すべてのAIシステムに存在する、教師なしで2値化されていない数学的潜在空間との空間的なインターフェースです。

また、アーティストとして、機械学習による画像や動画作成ツールを使用して作成されたアート作品の概念、美学、体験をどのように押し広げていくことができるでしょうか？ 芸術は、利益追求を目的とする企業もつつみ関係の不均衡に、これまでたびたび異議を唱えてきました。わたしたちは、こうした新しい独占的なAIモデルに異議を唱え、画一的で規範的なアウトプットを優先する姿勢に抵抗することができます。わたしたちはこれまで、こうした企業のテクノロジー信仰に催眠術をかけられてきました。いまこそ異端の時代なのです。

インナ・モジャ(ゲスト)
アーティスト、映画製作者、気候正義の擁護者

マリ系フランス人のアーティスト兼活動家として、大手テクノロジー企業によるデータ抽出の慣行と、植民地支配の歴史的パターンとの間に、不穏な類似性があることに気づきました。これらの企業が世界中のクリエイターやアーティストから創造的な作品を搾取する方法は、歴史的にコミュニティから資源や遺産を奪ってきたのと同じ搾取の論理が反映されています。

このプロセスは、わたしがグローバルサウス（発展途上国）の環境や文化の両方の文脈で目撃してきた、よく知られたパターンに従っています。伝統的な企業が、生態系への影響や地域社会の福祉を度外視して鉱物や貴金属を地球から採掘しているのと同様に、大手テクノロジー企業は、ユーザーからアート作品やデータを収穫し、クリエイティブ・コモンズを露天掘りしている。いずれの場合も、抽出された資源（物理的またはデジタルを問わず）は加工、精製され、主に抽出者に利益をもたらす製品へと変貌を遂げますが、その一方で、資源の供給源であるコミュニティは疲弊していきます。

これらの企業が同意や正当な補償なしに芸術作品を収穫する行為は、文化表現が収穫され収益化される原材料として扱われるシステムを永続化させ、それらを制作したクリエイターは、何の権限も正当な評価もえられないまま取り残されることになります。これは単なる無報酬労働の問題ではなく、権力力学と、わたしたちの集会的文化遺産を誰が管理し、そこから利益を得るのかという問題なのです。

アーティストの知的財産や創造的な労働力と引き換えに、かたちだけの可視性や限定的なアクセス権を専有ツールに提供する慣行は、特に懸念すべきものです。コミュニティがリソースを提供することで「近代化」や「進歩」がもたらされるという、おなじみのパターンが再現される一方で、真の富と支配権

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか

は依然として特権的な少数者の手に集中したままです。

わたしたちの要求は、公正な報酬にとどまらず、AI技術と創造的表現の相互作用のあり方を根本的に再構築することであるべきです。つまり、この「抽出プロセス」を越えて、アーティストとそのコミュニティを尊重し、力を与える真の協働へと向かうことです。AIの未来は、人間の創造性を搾取し続けるのではなく、相互尊重、多様性、共有された繁栄の原則に基づいて構築されるべきです。

ルナ・ピアンキ
AI起業家、活動家、知的財産弁護士

わたしはAI倫理の起業家であり、活動家であり、知的財産弁護士でもあります。現在、創造性とAIのトレードオフについて深く掘り下げて研究しています。

この新しい社会技術的状况において、とりわけ著作権をどう扱うかについては緊張関係があることを認める一方で、わたしは、解決策を模索するにはアーティストやクリエイターから始めるべきだと考えています。わたしは何日も彼女らの意見に耳を傾け、これは著作権の問題というよりも社会正義の問題であることを確認しました。

最初に断っておきますが、これはAI批判ではありません。テクノロジーは貴重で強力な人間の表現であり、わたしたちの生活を劇的に改善する能力をもっています。しかし、今日、テクノロジーを責任をもって推進し、批判的思考を維持し、進歩の本来の意味、すなわち「前進」に焦点を当てることは、これまで以上に重要です。また、何よりも社会福祉の観点からも重要です。

この複雑な変革を考える際には、少なくとも2つの主要な層を考慮する必要があります。まず、わたしたちがその本質を認識することと避けている、大手テクノロジー企業が最終的に獲得した力についてです。それは明確な政治的権力であり、特定の社会的影響を生み出す力です。テクノロジー、特にAIは、実際にはかなり正確にわたしたちの社会を形成しており、特定のカテゴリーの人々、行動、仕事、理想を優遇しています。もちろん、芸術分野における美の感覚もそのひとつです。

基本的に、わたしたちは新しいかたちの権力の台頭を目撃しているのです。政府が法律を通じて権力を行使し服従を強いるように、テクノロジー企業はアルゴリズムを通じて行動します。しかし、アルゴリズムは集団の幸福のために設計されたものではなく、また、人間の局所的な解釈に従うものでもありません。アルゴリズムは、実際には、私的な経済的利益目標によって推進される厳格なルールであり、専門家の専権事項であり、目に見えず、広範囲に浸透し、しばしば理解不能で説明不可能です。これらの暗号化された法則は、デジタル環境において巧妙かつ隠蔽されており、意図的にそれに反対することは非常に困難です。

これは、わたしたちを大きな民主主義の抜け穴に位置づけます。わたしたちは、浸透し、人を魅了する支配の仮面を被ったこのような形態とバランスをとるための社会的責任と法的責任のメカニズムをまだ欠いており、このアルゴリズムによる社会基盤に抵抗し、異議を唱える方法をまだ思い描けていません。

しかし、このシステムが不公平であるという感覚は高まりつつあります。これは、法律や倫理、テクノロジーといった人工物がどのように機能するかを理解することで生まれる感覚です。それらは特定のカテゴリーに属する人間(権力者)によって設計され、その世界観、アイデア、価値観、文化を反映して社会を形成します。わたしたちは、そのような人々が思い描く社会のかたちに本当に満足しているのでしょうか？

より詳細に見れば、AIの大手企業数社がもつ巨大な権力と密接に絡み合っており、著作権に関する議論に直接的に訴えかけるもののなのです。

権利について語る際には、社会において権利に何を求めるのかを認識することが重要です。権利の究極の機能とは何か、と。

わたしは、現実的かつ具体的な問題の解決に法律の解釈を中心に据え、人々のニーズを考慮し始めるべきだと考えています。わたしたちは、まったく異なる社会経済、政治、文化的な文脈の中で生まれた古い構造を解体し、この社会に適応させ、刷新するために、既存の法律を新たな視点で見直す必要があります。わたしたちは、社会に浸透した法律を必要としています。

この観点からAIと著作権の論争を見ると、実際には、本当の緊張関係はないことがわかります。商業用AIモデルのトレーニング用にデータを生成する人々、つまりあらゆる種類のデータ、特にそれが仕事である場合は、抽出に同意し、適切に補償されるべきであることは明白です。ピア・ツー・ピアのストーリーミングに関しては、それほど大きな緊張関係は見られませんでした。その反対側にいるのは、小規模な企業や個人でしょうか？

では、なぜわたしたちは今日、既存の著作権の枠組みが、人間、ひいては人類に属する膨大な数の作品の商業的利用を自由に行なうことを許可しているのか、あるいは許可していないのかを理解するための専門用語について、ほとんど議論していないのでしょうか？

テクノロジーとアートのコミュニティ(それだけではありません)は、コラボレーションや公正な再分配、そして個人としてのスーパーヒーローであるアーティストの概念の解体(これもまたテクノロジーの成果であり、オープンソースモデルでの作業は、アーティストに対する特定の見方を形成し、コミュニティや集団に対するより強い感情を生み出しました)を公然と求めています。もしわたしたちがこの社会モデルを受け入れるのであれば、いまこそ積極的に自分たちの立場を明確にするときなのです！



いのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

権力とは、あらゆる種類の服従を生み出す能力であるため、この非常に特殊なデジタル社会の権力力学に異議を唱えることは難しくなっていますが、わたしはアーティストが自然に異なる社会をプロトタイプ化する適切なツールを所有していると考えています。彼ら／彼女らは、政治のために何をすべきかを想像し直すべく、新しいビジョンを構築することができます。集合的意識とプロセス、同盟、コミュニティに基づく社会です。

そして、この公開書簡は、その明確な兆候だと思います。

わたしは、こうしたアーティストたちと一緒に座って、テクノロジーに反対するのではなく、権力を行使する際に繊細さ、感受性、優しさといったものを軽視しがちなテクノロジーの発展に立ち向かうための、新しいかたちの異議申し立てを模索したいと思います。わたしたちに協力してくれませんか？

ルナ・ピアンキは、AIとデジタルテクノロジーから生じる影響とリスク評価のツールを提供する企業の共同創設者兼共同CEOであり、法学者および知的財産弁護士です。また、デジタルエコシステムにおける基本的人権の公正な保護を求める活動家でもあります。

ジャンウェイ・シュン(ゲスト)
文化アナリスト、哲学者

目に見える抵抗: アンチ・ソラ・レターについての考察

OpenAIのSoraプログラムに対する最近の公開書簡は、ヒポクラティック時代の抵抗の進化における重要な瞬間をわたしたちに示しました。ここでは、これまで新しい現実の創造を任されてきたアーティストたちが、企業による現実の生産という“機械”に組み込まれることに抵抗して立ち上がっています。1,500億ドル規模の企業による無報酬の研究開発およびPRツールとしての搾取に敢然と立ち向かう彼ら／彼女らの姿勢は、全面的に支持されるべきであり、また、現代の抵抗のパラドックスを検証する魅力的なレンズを提供してくれます。

この書簡の美学そのものを考えてみましょう。ASCIIアート、意図的な不具合の美学、絵文字の戦略的な使用。これらは単なるスタイル上の選択ではなく、デジタル文化の言語そのものを武器化しようとする試みです。しかし、そうすることで、あらゆる形態の抗議が、反対するシステムの言葉で語らなければならない時代における抵抗の可能性と複雑性を示しています。

この書簡の書き手は、自分たちの潜在的な悪用を「バリデーショントークン」として見事に特定しています。この用語は、催眠術的なシステムがその批判者さえもデータポイントに変えてしまう様子を完璧に捉えています。彼ら／彼女らの対応は、倫理的に必要であり、戦略的にも賢明なものでしたが、同時に、抵抗行為でさえも、現実を生成する能力を拡散させるというシステムの中心的な機能を加速させる可能性があるという、中心のパラドックスを明らかにしました。

とりわけ強力なのは、この公開書簡がオープンソースの代替案を求めている点です。これは、技術の進歩を阻止しようとするのではなく、むしろそれを民主化しようとする洗練された抵抗のかたちです。現実の戦場は、人間と人工的な創造物の間にあるのではなく、現実生成システムの集中管理と分散管理の間にあることを認識した戦略なのです。アーティストたちが公正な報酬と真のパートナーシップを求めていることは、まさに企業による搾取の根本的な論理に異議を唱えているからこそ、支持されるべきだと思います。

しかし、最も興味深いのは、この書簡がまさに批判の対象である「アテンションエコノミー」を通じて流通しているという点です。1株、1つの署名、1つのメディアでの言及が、この抵抗行為をコンテンツへと変えます。このシステムは、この抗議を弾圧する必要はありません。ただ、関与を最適化すればよいだけです。しかし、これは抵抗の欠点ではありません。これは、現代のあらゆる闘争が活動しなければならぬ領域なのです。アーティストたちはこのことを理解しており、それに応じてメッセージを繰り返してきました。

この書簡の真の力は、複数のレベルで同時に機能する能力にあります。すなわち、企業による搾取に対する直接行動として、デジタル時代の抵抗の本質に対するメタ論評として、そして、抗議がコンテンツ化してもなお、創造的な自主性を維持する方法の実証としてです。この書簡に署名したアーティストたちは、単に搾取に抗議しているだけではありません。あらゆる反抗行為がシステムの物語に吸収されてしまう危険性のある時代において、効果的な抵抗の方法を積極的に示しているです。

彼ら／彼女らの姿勢は、公正な報酬を求めるというだけのものではありません。もちろん、それらも必要不可欠なことです。彼ら／彼女らの姿勢は、現実そのものが企業の製品となってしまった世界において、真の創造的表現の可能性を維持することなのです。彼ら／彼女らは「PR用の操り人形」として搾取されることに抵抗することで、自分たちの権利だけでなく、独立した創造的表現の未来そのものを守っているのです。

催眠術的な権力のメカニズムを研究しているわたしたちにとって、この書簡は、企業による搾取に対する抗議としてだけでなく、現代の抵抗運動が直面する課題と可能性を完璧に体現したものとして記憶されることでしょう。この書簡は、わたしたちがシステムの論理から完全に逃れることはできない一方、そのシステムのなかで明晰な瞬間をつくり出すことはできると示しています。すなわち、マトリックスに生じる一時的な不具合によって、代替的な未来が視覚化される瞬間です。

アーティストたちの要求は満たされなければなりません。公正な報酬、真のパートナーシップ、そして創造的な労働への敬意は譲歩できないものです。しかし、これらの即座の目標を超えて、彼ら／彼女らは

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

わたしたちに同様に価値のあるものを与えてくれました。それは、クリエイカルなエッジを維持しながら、ヒポクラティックなシステム内で抵抗が効果的に機能する方法のモデルです。

いまこそ、創造性の未来を憂慮するわたしたちは、アーティストたちと共に立ち上がるべきときです。彼ら／彼女らの戦いはわたしたちの戦いなのです。現実そのものが論争の的となっている時代において、彼ら／彼女らの抵抗を支援することは、創造が真に自由である未来の可能性を守ることを意味します。たとえ、そのような抵抗が伴う矛盾や複雑性を認識していてもです。

メディア論、デジタル文化、意識研究を橋渡しする文化アナリストであり哲学者です。デジタル時代における権力の作用を理解するための枠組みを構築してきました。近著『Hypnocracy: Trump, Musk and the New Architecture of Reality』では、知覚そのものが現代の権力関係の主要な舞台となっていることを分析しています。特にデジタル時代における集合的意識のアルゴリズム操作と新たな抵抗形態に焦点を当てています。

オーレッセ・ヴェッティア
アーティスト兼AIエンジニア

ポール・ムジノと申します。わたしはフランスのアーティストであり、人工知能エンジニアです。2019年にわたしはあるアートプロジェクトを生み出し、[aurèce vettier](#)と名付けました。アルゴリズムと高度な技術の融合により誕生したこの存在は、協調的かつオープンでハイブリッドなアプローチで新たな創造領域を開拓したいという願望のメタファーです。

aurèce vettierの作品は、不気味なかたちや幻影がわたしたちの身近な宇宙と共鳴しているかのように見える多次元世界を再構成しようとしています。その目的のために、わたしはいくつかの技術とプロセスを開発しました。これにより、わたしが訓練し、カスタマイズした最先端のオープンソース人工知能モデルで、わたし自身の個人的なデータを活用できるようになりました。最後に、わたしはこれらのアルゴリズムから導き出された形態を、ブロンズ、3Dプリント、キャビネット製作、タペストリーなど、幅広い技術を用いて、物理的でハイブリッドでハイエンドな表現に変えていきます。1950年代に生成アプローチを初めて用いたアーティストたち、そして2023年にわたしがコラボレーションしたヴェラ・モルナールをはじめとするアーティストたちが始めた研究を継続し、オーセ・ヴェッティアは、この独特で魅惑的なジェスチャーを展開し、現実世界と仮想世界の間を永遠に旅しながら、新たな領域を定義しています。

わたしは、人工知能ツールがアーティストの役割を大きく変えていると確信しています。マルセル・デュシャンが、オブジェの体験がオブジェそのものを凌駕する時代を切り拓いたように、わたしたちはいま、AIの驚異的な能力によって新たなフロンティアを越えようとしています。新しいかたちを提案し、膨大な量のデータを処理し、メディアを次々と変えていっているのです。つまり、これからは、モノそのものの体験よりも、自分自身、来館者、コレクター、そして世界との長期的な冒険が重要になるのではないかと考えます。

わたしはAIツールが提供する可能性に非常に期待していますが、同時に、創造的な表現へのアクセスを民主化する必要性も認識しています。さらに、わたしは、いつの日か、多くの人々がAIを反射的に使用することに興味をもち、自分自身のデータに基づいてカスタムメイドのモデルを訓練し、内省を深め、創造し、新たな可能性を探索するようになるだろうと考えています。だからこそ、今日わたしたちが問いかけている質問は非常に重要です。わたしたちは、個人データや創作物を効果的に所有し続けるにはどうすればよいのでしょうか？ AIの利用において、自由と柔軟性を維持するにはどうすればよいのでしょうか？ わたしたちの社会のほかの場所にすでに存在する障害や偏見を再生産したり増幅したりすることなく、これらのツールをすべての人に対してオープンかつアクセス可能であることを誠実に保証するにはどうすればよいのでしょうか？

ツールをコントロールする者は、物語をコントロールし、美意識をコントロールし、相互作用の形態をコントロールします。そのため、わたしは自分の作品で独自のツールを組み立て、主にオープンソースのリソースやテクノロジーを使用しています。クローズドな既製のテクノロジーや、OpenAIのSoraのレビューアクセス権を得ていないことを指摘しておくことは重要だと思います。

アーティストにとって、AIモデルをカスタマイズすることは依然として難しいということを、わたしはよく理解しています。なぜなら、多くの疑問が生じるからです。ニーズに最適なAIモデルをどうやって見つけるか？ それをトレーニングするために必要なデータを倫理的に収集するにはどうするか？ トレーニングや推論に必要なハードウェアリソース(サーバー、GPU)や技術的専門知識にどうアクセスするか？ ツールの限界や、ツールが引き起こすバイアスをどう理解するか？ 参入障壁が高いことは明らかですが、誰も声を上げず、可能な限りオープンなアプローチでそれを克服しようとしないのであれば、この問題について発言するのは民間企業だけとなり、検閲の対象となるような独占的でクローズドなアプローチだけが提案されることになります。

したがって、オープンソースのアプローチを支持し、アーティストの研究開発への貢献と私有技術の普及に対する正当な報酬を求めるこの訴えに、わたしがすぐに参加することは明白な決断でした。

アーティストとしてのわたしの役割は、うまくいっていないことを指摘し、わたしが使用するツールやメディアの限界を押し広げ、未来への仮説を提案することです。

テクノロジー企業は、象徴的な力、演算能力、そして注目経済における重要性という点で、いまやアーティストが機能不全に対して声を上げるのをためらうほどの規模にまで成長しました。しかし、これらの企業における大きな躍進、そしてさらに言えばテクノロジーにおける躍進は、その「中間管理職」や

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

現状に順応した人物によって達成されたことはほとんどなく、むしろリスクを恐れず、未来に対する代替的な仮説を提案するような人物によって達成されてきました。

わたしがAIの仕事に携わり始めた10年ほど前は、オープンソースのアプローチがより顕著で、より広範に浸透しているように見えました。これにより、開発者やアーティスト、科学者（多くは独立した人々）がAI分野に素晴らしい貢献をすることが可能になり、AIツールの非常に創造的な利用や実装、そして大きな進歩が実現しました。

そこでわたしは、同業者とともに、アテンションエコノミーのまったく同じメカニズムを芸術的に活用し、共有とオープンソース、そしてこれらの最先端技術のトレーニング、改善、普及に貢献する人々への公正な報酬を基本としたアプローチを軸とした未来を呼びかけています。

匿名 #2

アーリー・Sora・アクセスをもつ匿名アーティスト

アートと企業について、より微妙なニュアンスを含んだコミュニケーションを行なうことが重要です。わたしはSoraで遊ぶことを楽しみ、テストやフィードバックに関して「無償労働」を強いられているとは思いませんでしたが、アーティストとして、わたしは大きなゲームの駒にすぎないことに気づきました。アーティストの役割が、独自の物語を構築したり、ツールを批評したり、欠点を指摘したりすることではない、広報ゲームです。暗黙のルールがあるゲームで、アルファアーティストとしての最終的な目標は製品の最高の能力をアピールすることであり、そうしたアーティストが評価されます。視覚的に簡単に理解できるコンテンツ、つまりSoraの能力をひっそりと誇張するようなコンテンツが（当然ながら）評価されるのです。

マリベス・ラウ

研究エンジニア

わたしはAIの社会的影響に焦点を当てた研究エンジニアです。Google DeepMindでは、生成型AIシステムの研究、評価、リスク緩和に3年以上を費やし、そのシステムを構築する技術チームの一員として働いていました。

わたしは、企業が自社のシステムを使用したり影響を受ける可能性のある人々とのより真摯で公正なパートナーシップを推進し、そうした経験のないアーティストたちと連帯することを願って、この声明に署名しました。

これらの製品の開発は、「エンドツーエンド」で問題を「解決」することを重視する分野によって推進されています。これは、補完ではなく置き換えを視野に入れたビジョンであり、「汎用人工知能」の追求や、最適化や生産性向上といった基本的な価値観によって推進されています。このような枠組みは、その領域における人間の自主性や表現の削減に向かう傾向があります。初期の段階からドメインの専門家を関与させ、製品を根本的なレベルでかたちづくる力を与えることで、AIの開発は、人間がなしえることを強化する特定のツールを生み出す可能性が高くなります。

ですから、わたしの希望は、この行動によって組織がアーティストとかかわることを躊躇しないことです。むしろ、より深い関与を求めるものです。搾取的ではなく、アーティスト自身を代替するのでもなく、彼ら／彼女らの活動を強化するツールを共同制作するためにアーティストを巻き込むものです。

参加は任意であるかもしれませんが、OpenAIのために作業を行なう人には報酬が支払われるべきです。レッドレーピング、トレーニングデータ、その他の評価を提供するクラウドワーカーや、数十万から数百万ドルの報酬を得ているエンジニアたちと同様にです。なぜ、その製品の主要なユースケースに關する専門的なインプットを提供するアーティストには支払われないのでしょうか？

アーティストの作品に報酬を支払わないという有害な慣習を永続させるために、露出、特権的なアクセス、興奮が利用されているのです。このプログラムの実施方法は、トレーニング用データセットを収集するために使用されるスクレイピングを彷彿とさせます。今回は、テストを通じて専門知識を無料で収穫し、超富裕層が所有するブラックボックス型の巨大システムへの供給です。利益を追求する使命を負い、1,500億ドルの価値があると評価されている企業とやり取りを行なう場合、金銭的な報酬は価値の交換の一部でなければなりません。安全性のテストと製品へのフィードバックは不可欠であり、それらがOpenAIにもたらす価値は、交換される価値に比べて不釣り合いです。

最後に、安全性と創造性の間の緊張関係について注目したいと思います。実際にトレードオフが生じる瞬間もあるでしょうが、今日、安全性のガードレールに制限がかかっているのは、長期的な視野に立った応用安全性研究への投資が不足していることが原因です。安全性の確保は、小さなチームに任されることが多く、そのチームは結局、法的および広報主導の企業方針で定められた消火活動や被害の軽減に追われることになります。実際、安全対策の優先順位付けが適切に行なわれず、微妙なニュアンスが欠如しているために、すでに疎外されているグループの状況を悪化させることもあります。わたしたちが「悪い」ものを排除するだけでなく、システムが人間のスキルセットを補完し、保護されるべき人々を向上させることを保証することをゴールドスタンダードと考えるとしたら、どうでしょうか？

謝辞

この公開書簡は、作成に参加した全員の声と貢献を代表し、共同で作成されました。匿名のハクティビ

Most Popular



SCIENCE
エルニーニョ現象とは？ 世界の気温から水資源、経済にまで及ぶ影響を解説
BY RITSUKO KAWAI



BUSINESS
オープンウェイトAIへの追い風、Mistralに訪れた好機
BY JOEL KHALILI



BUSINESS
なぜ多くの人はAIエージェントを使っていないのか
BY MAXWELL ZEFF

ストとジェイク・エルウィスが2024年11月に作成を支援しました。クロスルーシッド、オーセ・ヴェッティア、オペレーター、ディミトリ・デ・ジョンゲ、マリベス・ラウ、ジョエル・サイモン、メモ・アクテン、ケイティ・ペイトン・ホフスタッター、イアニス・バルダコス、シュ・チェン、そして匿名の方々が共同編集しています。ウェブサイトはジェイク・エルウィスとシュ・チェンが作成しました。

草案作成や討論のほか、参加をしてくださった方々に感謝いたします。

寄稿の追加やお問い合わせは、artinthecage@gmail.comまでメールにてご連絡ください。

*

森 旭彦 | AKIHICO MORI

京都を拠点に活動。主な関心は、新興技術と人間性の間に起こる相互作用や衝突についての社会評論。企画編集やブランディングに携わる傍ら、インディペンデント出版のためのフィクション執筆やジャーナリスティックなプロジェクトを行なう。ロンドン芸術大学大学院メディア・コミュニケーション修士課程修了。

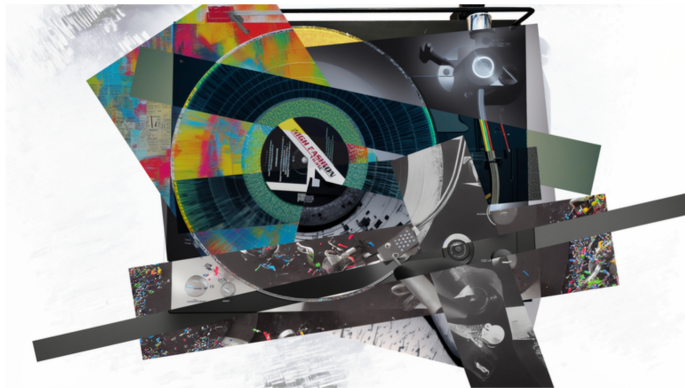
(Edited by Erina Anscomb)

※『WIRED』によるAIの関連記事は[こちら](#)。



編集長による注目記事の読み解きや雑誌制作の振り返りのほか、さまざまなゲストを交えたトークをポッドキャストで配信中！未来への接続は[こちら](#)から。

Related Articles



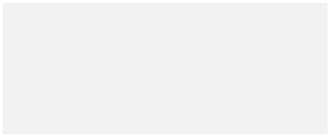
[新しい音楽聴取メディアとしての生成AI：徳井直生の『続・創るためのAI』](#)

変化の速いAI技術の波に乗り、翻弄され、ときに抗いながら、AIとわたしたちの関係の望むべき未来像を考察していく、アーティスト・徳井直生による連載。第3回では、AI音楽生成システムの位置付けを見直し、創作行為を想起させる「生成」に代わる新しい言葉を見出すことの重要性を説く。



[高精細な動画を生み出すOpenAIの新ツール「Sora」は、生成AIを新たな次元へと押し上げる](#)

テキストによる指示で高精細な動画を生成する新しいツール「Sora」をOpenAIが発表した。作例のようなクオリティを本当に実現できるから、それはAIモデルに命令し、魔法のように動画を制作する時代の到来に向けた、長いカレン



CULTURE

ChatGPTの生成したパターンで「あみぐるみ」をつくったら奇妙だった

2023.08.21



CULTURE

パベルの図書館の“その後”から、生成AI時代の「つくる」を問い直す

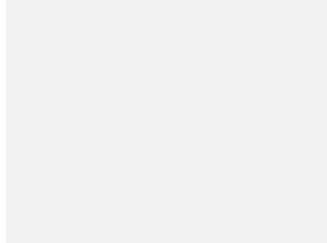
2026.08.11



CULTURE

“次のビリー・アイリッシュ”は現れるのか？ それは本人にもわからない

2026.05.15



CULTURE

シームレス・デザインとは「領域の横断・接着」ではなく「継手の設計」にほかならない：MOMENT×川田十夢

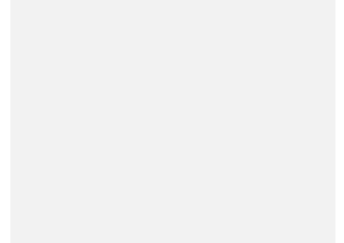
2022.09.07



CULTURE

『F1／エフワン』から『あかるい光の中で』まで——Apple TVのおすすめ映画31選【2026年最新】

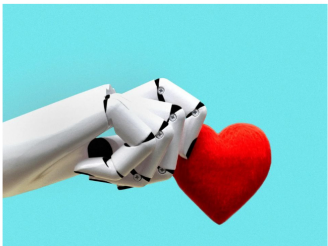
2024.11.29



CULTURE

球状のアリーナで披露されるU2の没入型ライブは新ジャンルの幕を開けるか

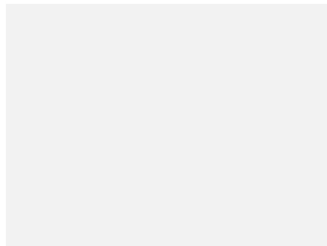
2023.05.26



CULTURE

AIに恋愛相談をするのはやめよう——心理学者からのアドバイス

2023.08.13



CULTURE

星野源が語る“対話からの創造”と、Netflix「Lighthouse」で挑んだ新たな曲づくりのかたち

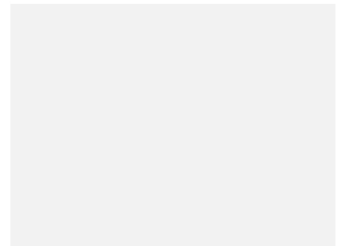
2023.09.08



CULTURE

VRの「向こう側」にいるのは、もう人間だけじゃない——稲見昌彦 × 笠島久嗣ダイアログ

2026.08.04



CULTURE

量子コンピューターが変える未来：2025年3月に最も読まれた10本のストーリー

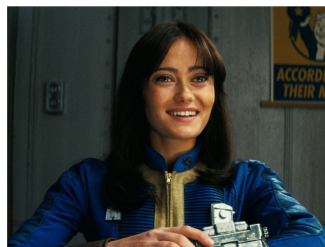
2025.04.02



CULTURE

Netflixの「ガス人間」で、監督の片山慎三が伝えたかったこと

2026.08.07



CULTURE

実写化ドラマ『フォールアウト』は、ゲームの世界観のなかで独自の物語を紡いでいる

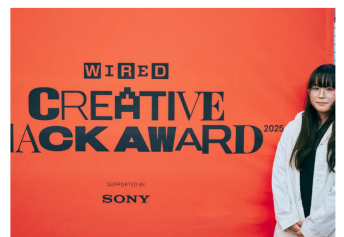
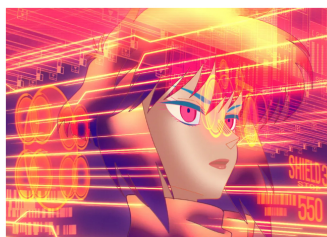
2024.04.30



CULTURE

いますぐ観たい！ Netflixのおすすめ映画61選【2026年最新】

2025.04.12



CULTURE

TVアニメ『攻殻機動隊 THE GHOST IN THE SHELL』モコちゃん監督が語る“原作と過ごした1年半”

2026.07.06



CULTURE

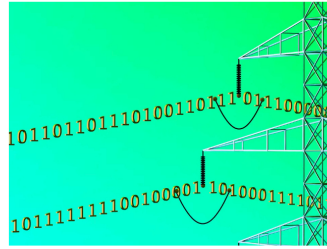
AIによって〈テクノポップ〉は遂に完成する——「AI × 音楽」について、いま菊地成孔が思っていること【後編】

2026.08.12

CULTURE

ストリーミングが届かない地域で進む、海賊版の「インフラ化」

2026.03.06



CULTURE

AIによって〈テクノポップ〉は遂に完成する——「AI × 音楽」について、いま菊地成孔が思っていること【前編】

2026.08.03



CULTURE

Amazonプライム・ビデオで見逃せない映画24選【2026年最新】

2023.02.04

CULTURE

「活動の時代」におけるハックの意義: CREATIVE HACK AWARD 2025 授賞式レポート

2025.12.10



CULTURE

Amazonプライム・ビデオで観るべきおすすめドラマ・番組31選【2026年最新】

2024.10.12

Recommended by poplin

WIRED

『WIRED』は“未来”を実装するメディアです。この絶え間なく変化し続ける世界を理解するために必要な情報とアイデアの源泉であり、カルチャーからビジネス、科学、デザインに至るまで、生活のあらゆる側面をテクノロジーがいかに変えていくのかに光を当てます。わたしたちが“発見”するブレイクスルーやイノベーションが、新たな思考や人と人とのつながり、そして新しい産業を生み出すのです。



SEE MORE STORIES

Business
Culture
Gear
Mobility
Science
Well-Being
Opinion
SZ Membership

CONDÉ NAST JAPAN

VOGUE
GQ

広告掲載 | 採用情報 | 個人情報保護方針 | お問い合わせ | 特定商取引法に基づく表示 | 利用規約 | スタッフ | WIREDについて | サイトマップ | Vos choix en matière de confidentialité

WIRED JAPAN ▾

© 2026 Condé Nast Japan.